

早雲寺

禅宗、臨濟宗の寺院である早雲寺は、その悲劇的な歴史にある種ふさわしく、厳格な趣を称えています。その歴史は 1521 年、武将北条氏綱（1487 年–1541 年）が亡き父、北条早雲（1432?年–1519 年）を祀る寺として建立したことに遡ります。各地の武家が同盟と反目を目まぐるしく繰り返した時代に成功を収めた無慈悲な大名、早雲は、箱根周辺地域の権力を集約して、息子がこれらの領地を大名として収め、北条家として家名を高める基盤を築きました。北条家の繁栄に伴い早雲寺も興隆し、その頂点においては、同寺院の境内は現在の箱根湯本駅に達するまでに拡大しました。これは、北条早雲の末子、幻庵（1493 年–1589 年）が境内に禅式の枯山水庭園を築いたと言われる時期とも重なります。

1590 年、後に日本の天下統一を果たした戦国大名、豊臣秀吉（1537 年–1598 年）が、北条氏を征伐し、北条家の居城であった小田原城を攻略したことで早雲寺の命運は一変しました。早雲のひ孫で当時の北条家君主であった北条氏政（1538–1590 年）は切腹を強いられました。秀吉は早雲寺を焼き払い、氏政の

息子、氏直（1562-1591 年）を追放し、後に氏直は追放先の地で一生を終えました。

箱根の大名家は打ち破られましたが、絶えたわけではありませんでした。氏政の弟、氏規（1545 年-1600 年）と甥の氏勝（1559 年-1611 年）はいずれも征伐を逃れ、北条家の名を守りました。両家の血筋は今も続いており、17 世紀前半の早雲寺再建に大きな役割を果たしています。1672 年以降、境内には早雲、氏綱、その息子である氏康（1515 年-1571 年）、氏政、氏直と、北条家 5 代の墓が建立されました。本堂の裏側に幻庵が設けた枯山水庭園は、1660 年に再建されました。 その後ろの丘の中腹では、シイの大木の数々が寺院の墓地にかぶさり、かつての箱根の盟主らの墓に影を落としています。